

第一回「日蓮宗教化研究会議」

出席者アンケート調査レポート

研究会議開催についての一連の企画のなかに、当初から予定されていた会議終了後におけるアンケート調査を行ったところ出席者中二六名の方が回答をよせられた。(他にアンケート用紙発送前に意見を寄せられた人もある)その中には貴重な意見や批判が含まれており、今後研究会議を組織していくうえで重要な指標となると考えられるため、要点を抽出してレポートすることにした。なおこの調査は一般の与論調査ではないので、数的な評価はあまり意味をもたない項目が多いので、意見には解答者の氏名を附すことにする。(集計整理した原資料にもとづいて、御自分で分析されたい方は、コピーしたものを御送りするのでお申し出いただきたい。)

A、第一回研究会議について

1、テーマのとりあげ方

「総花的」で、「盛りだくさん」にテーマをとりあげず

ざたという意見は、解答者のほとんどが寄せた見解であった。

しかし「どのテーマも必要」(北川即正師)「初めての研究会議ですからやむを得ない」と思う(矢沢貫皓師)。「範囲がもともと広い問題だからやむをえなかつた」(釈日広師・大庭正道師)などの附加的見解が主流を成している、更に「第一回研究会議としては成功であり意義深いものがあつたと考える」(星合義宏師)「大きなテーマが二つあつたがあれでもよいと思う」(木名瀬寛明師)「盛りだくさんだったが、全貌が見えて第一回としてはよかった」(高見随秀師)等の肯定的な意見もあつた。

次に討議についての意見としては「方向をうちだす余裕」(北川師)「問題点とその方向づけ」(路次泰元師)を求める意見があつた。

次に「掘り下げ方が十分と思われない」(麻生是大師)「テーマは立派だが欲が深すぎて追ひ打ちができない」

(三田村竜全師)「焦点がぼけ、掘り下げ浅い」吉塚通敬師)「将来はユニークなキメの細いものを」(小野文星師)というようなテーマのとりあげ方と討議の内容についての批判も多かった。

「もっとしぼるべきではないか」(吉田光英師)という意見をはじめとして、「専門店式な面での物足りなさを覚えた」(松井義海師)などテーマは重点的であることを望む声が多い。

このような問題が起る原因と解決方法について、時間の不足という意見と、会議の方法を改めよという見解とに分れている。

「時間にむりがあった」(三浦泰静師)「時間的制約を受けた」(麻生師)「問題が多く時間に追われました」(山田勝義師)「もう少し時間をかけて」(星合師)「短時間で消化することはむり」(釈師)「二日間で、残念」(矢沢師)などである。

討議方法については「分科会方式」(大庭師)「パネル・ディスカッション方式」(太田鳳苑師)などの提案があった。

2、問題提起者の選択について

この項目は今回の問題提起者の起用に對して賛否両論に

分れていて興味深かった。最初に否定的見解から検討していこう。そのうちもっとも具体的な見解として新聞智照師の意見がある「——テーマのとりあげ方をもっとみっちり全員で練れば、個人の不足をカバーできる。いちがいに言えないが、参加者をいささかうんざりさせた(問題)提起者もいたようです。米沢師・あまりに現新聞擁護に立ちすぎ問題が深められない。片山師・村上師の他に視聴覚(伝道問題)全体を展望できる人も欲しかった。丸山師のはじつくり論文にすればよいが、あの場合には皆を退屈させた。ミスキャスト。」稲垣友俊師も、「石川泰道・望月一靖・

近江幸正師の選出には失望した。もう少し実践年歴深い方に願いたかった。外は結構です」という意見であり、「どの課題についても通りいっぺんの説明というだけで残念ながら納得ゆけるもの傾聴に値するものがなかった」(小野文量師)などがある。また吉田晃英師は「学者先生の机上の空論を聞かされただけで寺に帰って何ら参考になる事なし」と極論されている。一・二の方に学者アレルギーがみられ「理論的实践にわたって学者嗅みは極力避けるべきである」(中井泰淳師)などもそれである。

必ずしも問題提起者を忌避するものではないが、「参集する一般の地方の方を(問題)提起者として今回のような

(問題) 提起者は助言者としたらよい。」(木名瀬師)、
「(問題) 提起者は鈴木惠隆師ぐらいにして、石川・近江・望月師はむしろ質問の代表として欲しかった」(稻垣師)「多くの人が発言したくなるような一穴のある問題提起者であって欲しい」(吉塚師)などがある。稻垣師の見解には問題があり、望月師がとりあげた「面接技術」は専門家でなければ問題の提起にならず、経験上からの具体的質問によって理論的解明が可能なはずである。石川師の、「言説布教」と近江師の「行法教化」は他にも多くの実践的布教家もあり、回を重ねていけば当然他の問題提起者が撰ばれることと思う。また、新聞師の見解のなかで、米沢教隆師の「新聞」についての問題提起に対する批判があるが、日宗新聞の現状とその現実的な批判を試みる場合、米沢師は適任者であったはずである。「日宗新聞」の内情がわからずに問題を提起したところで現実的改革につながる討論とはならないし、いたずらにないものねだりの空論に終るのみであろう。(丸山の「農村問題」についての批判は全く妥当である。丸山がこの問題を担当したのは、専門であるからではなく、適任者を探す時間がなく、また人を探しだす労を惜しんだためのものであった。)

以上の七師がニュアンスが異なるが批判を記されている。

残りの十九師は附加条件の有無はあるが「異議なし」(角田義尊師・北川師・三浦師・釈師・糸久師等)の解答をよせられている。

しかし附加条件は今後の開催方法についての問題を提起しているので順次紹介してみたい。

現実的でやや皮肉な「費用のわからない点で妥当と思います」(麻生師)という意見と「部外者からの人も欲しい」(宗門外の意味と思われる)(三田村師)の意見は、専門家を広く一般からも探して起用してはという見解のように思える。

特に反省しなければならぬものとして、「問題の取組み方に統一性がない」(路次師)という指摘である。

またもっとも多い意見は「欲をいえば実際活動家を含めて欲しかった」(松井師)「一問題について中央の方と地方の実践者の二意見を提起するようにはいかか」(山田師)「問題によっては地方の権威又は実際の経験者をもっと多く利用したら」(大庭師)など、地方の活動家の起用についての提案があった。

「遠近寺院の一切を超えて活潑な交通を」はかって欲しいという矢沢師の意見や、「データーをもう少し詳しくプリントして欲しい」(太田師)などの声もある。

「問題提起者については主催者の苦心のある所でとやかく言えない」（三田村師）「現宗研の方々に感謝す」（高見師）「各師ともに布教に対する熱意と新しい宗門の方向づけを如何にするか、そうした愛宗の念が感じられ非常に感激しました。特に若い方々を問題提起者として選択されたことは大いに意義があったと思います。」（星合師）等の意見には主催者としてはただその責任の重さを痛感するのみである。

3、今回の課題に関心をもつたか

「問題提起者の方の中で一番敬服したのはやはり実際に身をもって実践しておられる上田栄寿師のみである。非常に参考になりました」（吉田師）の見解に代表されるように、上田師の「文書伝道」についてはもっとも多くの関心が集まったようである。

「隣接する寺院の協力でやる池上の布教体制」（麻生師）についての関心も強く、また「青少年問題にのみ限りませんが、シンポジウム諸項に関心が一段と強かったように思う」（矢沢師）「次代を引き継ぐべき青少年教化について」（大庭師）「一般寺院の信徒青年会のもち方、青少年教化について」（高見師）等、青少年教化の問題は実践的活動家の今日的なテーマのひとつであることがうかが

われる。

点数で表わすことはあまり意味がないが、次に関心を示すと記入されたものを分類してみる。

「文書伝道」八票・「農村問題」八票・「都市問題」七票・「教団教化の現状」六票・「青少年教化の問題」五票（内特に「信徒青年会」三）「新聞・雑誌」五票・「面接技術」四票・「視聴覚伝道」四票・「新興宗教」三票の順であった。

4、開催方法・運営・日程について

ここにはいろいろな批判がでていますが、「第一回だからやむをえないが日程は盛り沢山であった」（木名瀬師）に代表される意見が過半であった。でている問題を次に簡潔で示していこう。

①「強行日程で疲労した」（高橋正寿師・路次師）「椅子は苦しかったです」（鯉淵宏昌師）など生理的苦痛を訴えた方があった。

②「質疑討論の時間がもっと欲しい」（山内堯祐師）という意見は他の項にもしばしばでてくる意見であった。

③日程については「日程は適切」（稲垣師）「日程は良い」（大庭師・角田師・山田師・高見師・高野師・山内師）などの意見と、「もう少しあってもよい」（太田師）

「三日と五日が良い」（堀田泰宣師）「余裕がない」（路次師）「二泊三日がよい」（星合師）などの見解に分れている。

⑤ 運営については、「当を得ていた」（三浦師・堀田師・松井師・高見師・稲垣師）の意見と、一方「話あいの時間をもっととってほしい」（吉塚師）時間がなかったことを訴える方が多い。

⑥ 「分科会形式をとって欲しかった」（太田師）という意見も多く、北川師・大庭師・星合師・高見師・角田師等同じ意見である。また助言者をつけることを太田師・高見師が提案している。

⑦ 「会場に来るまで何の資料ももらわないというのは下手な運営です」（新聞師）「前もって参加者は研究したものをもって集るようにしたい」（北川師）という準備不足をつく見解もあった。

5、食事・宿泊などについて

多くの方は財政状態を察せられたためか意見をあまり寄せられなかったが、

「宿泊が池上本門寺であったから朝勤に出られて大変ありがたかった」（北川師）という意見に代表されているものと思う。ただ「会議後に懇親会があって然るべし」（高

橋師・大庭師）などの意見もあった。

B 問題を深めていく方向で今後とも会議をも

ちたいと考えているが――

6、会議を継続していく必要があるか

主催者としては誠に幸せなことに、アンケート解答者の全員が研究会の継続の希望を解答された。

北川師「あくまでも宗義の実践化だから、（宗門の）問題解決と護法運動とを直結するためにも必要。」

新聞師「大いに必要・現場教師の結集は今までになし。わずかに日青連が稚拙ながらしていたのみ。」

中井師「十分に地方の声を反映させながら――必要。」

吉田師「大いに必要。むしろおそすぎたくらいである。」

三田村師「△教化研究会▽は△布教教化▽とどう結びつけるか？必要であるが在り方を充分検討のこと。」

矢沢師「折角結構な催しなのでできる限りルールを踏みはずさぬ範囲で現代社会にマッチするような活潑な研究をとりかわしていきたいと思います。」

木名瀬師「教化研究会は絶対継続すべきである。」

星合師「必要なことである。新しい宗門のヴィジョンを

この会により生みだすべきである。」

山内師「必要というより、なぜ今まで開催しなかったかと問いたい。」

高野師「大いに必要です。私は宗門人の会議で今回ほど清潔で若々しく、真面目な会を存じません。宗門の再生はこういう会からだと考えます。そういう使命を自覚されて自信をもって開くよう、努力していただきたいと切望します。」

松井師「宗門の危機なり。遠慮なくどしどし行うべし。」

山田師「是非必要と思えます。」

吉塚師「是非必要。そして深めていくべきである。」

堀田師「必要と考えます。」

太田師「勿論。言を待つまでもなく必要だと考えます。」

角田師「益々頻繁に開催して下さい。」

7 次回にとりあげるべき新しいテーマについての提案

この問題については実に多面的個別的提案が多く、問題意識が共通しているものは、農漁村問題（寺院統廃合の問題を含む）平和問題・本尊問題・青少年教化の問題等であるが、ほとんど類別不能である。文を要約して紹介しておく。

北川師は「本尊問題。寺院の自己批判。日蓮宗新聞の問

題」

路次師「寺院統廃合の問題」

新聞師「教化活動の集団化・機械器具の利用の問題、メディア（媒体）によ（ってつくられた）現代文化（現象）の中にある宗教の問題」

中井師「非住職選挙権問題を含めた宗門組織と教化問題」

吉田師「街頭布教についての各種の研究」

三田村師「動く布教組織、布教師の養成及び資格の問題
日蓮宗の平和理念の確立、宗義の生活化と檀信徒の生活信条」

三浦師「布教の歴史としての宗門史の研究。新建築の寺院と旧寺院建築であった時との檀信徒の感情（の変化）について」

矢沢師「社会教化のシンポジウム」

高橋師「具体的実践者の話」

大庭師「平和の問題とそれに附随する問題、青少年教化の体験報告と問題点。人口移動に対応する布教方法と宗門としての諸施策。」

釈師「全体的な宗門布教伝道の極め手の研究」

糸久師「十年後の変革を予想して、農漁村寺院の諸問題（統廃合と後継者の問題）」

小野師「内容（教義）と形式（布教技術）を分けてとりあげたい。」

木名瀬師「宗門意識の昂揚と教団の明日への課題」

星合師「在家の仏壇に奉安する本尊の問題」

山内師「都市―檀徒の信徒化。農村―信徒の檀徒化」

高野師「二十一世紀と宗門の役割（使命）」「宗門としての平和問題」

「宗門の近代化はいかにあるべきか」

「僧侶、仏教が在家仏教か」

松井師「宗教の基本理念と実際を含む宗門の政治活動について」

高見師「農村・都市の伝道方法、青少年教化の問題」

山田師「会議終了後に次回までの研究課題を出して参加者への宿題としてはいかが」

吉塚師「教化者の態度・服装・具体的伝道の方法」

堀田師「本尊統一形式の問題、僧階の試験昇格の問題」

大田師「護持会の結成と信徒青年会の育成について」

角田師「住職は何を為すべきか、義務づけるものを明示する問題」

以上のように多面的な要求と問題意識が表現されているわけだが、これらを統一し本質的なテーマにしぼり、討論の過程でその多面的期待に応えていくことが今後の課題で

あると思われる。

8、問題提起者についての提案

すでに明らかにされてきたように、「実際に苦勞している各師」（山田師）「現場教師を」（中井師）「有名でない普通の住職とか教師」（木名瀬師）「実際に現在活動しておられる人」（吉田師）という声が高いのである。

その問題を解決する方法として、北川師は「全国宗務所管内の代表者より、希望者を提出せしめて選出する」といいう提案がある。これは問題によって第二回に採用する必要があると思う。

また「内局の責任者（部長級）を一名位は加えた方がよい」（三浦師）という提案もあり、これも採用されると思う。

新聞師は「だんだんと人材を見つけて下さい。しかし問題は提起者よりもそれ以前の問題検討と、提起後の討論の時間です」という意見を寄せられているが、「テーマ別に具体的に考慮する」（小野師）という意見と合せて、次回の問題提起者選出の、重要な参考意見となるものと思う。

予算によっては、事前の検討も可能となると考えられるし是非そうしたいものである。路次師の「問題のとり組み方に統一性がない」という意見も、このことにかかわって

ると考えられる。

また「数ヶ月前に選定すべきこと」（木名瀬師）ということも当然配慮されねばならない。

「一般の学者・専門の泰斗も希望」（稲垣師）「例えば室伏厚師・細井友晋師・戸頃重基師その他有為の方達」（高野師）という希望もある。前者と後者の提案とは違いますが、これらも今後の問題として検討していかねばならないであろう。

高見師の「問題提起者が気の毒、もう少し時間をあげて欲しい」ということは、テーマをしばって充分時間をとることによって可能であろう。

吉田師の「机上の空論はもう結構です」という意見もあり、一方に「問題提起者はそれぞれ良かった」（高見師）「現宗研において選択よろしく願いたい」（太田師）というような意見もあった。

なおこの項はAの2√の項と重複して解答をよせられているので、あわせて検討していただきたい。

9、開催方法についての提案

①場所の問題として、「開催の場所を変える」（中井師）「関西方面でも開催してほしい。東北・九州で開催されても参加したいと思う。」（吉田師）「さし当っては現宗研

が東京でやるより仕方ないでしょう。民間（？）で主催はまだ無理だし中央でやる気のあるのは現宗研くらいのものですから」（新聞師）「今回の開催方法でよい」（北川師）「主催者に二任」（糸久師）「第一回の如くでよろしい」（稲垣師・三浦師）などである。

②時期「十一月或は十二月初旬が良いと思う」（三田村師）「四月中旬・九月上旬」（松井師）「二年二〜三回開催されたい」（山田師）などがある。

③「テーマの設定を早くし、少くとも開催一ヶ月位前に出席者に配布し、予備知識を持って会議に出席・助言者形式で討論をさせる」（麻生師）「開催日まで日時を置き地方の諸問題のとりまとめ等、充分の準備をさせて出席せしめる」（大庭師）等、準備期間をおくことが強く望まれている。

④「現宗研だけでなく、各ブロックより一名位の運営委員も必要」（木名瀬師）という提案はもっともであり、望むところであるが、それをばばむものは予算であって、自費で運営委員会へ出席してもらえるものだろうか。

⑤「本山を借用し、実演・実技指導を」（小野師）これは次回から具体化されるものと思われる。

⑥期間については「三日間程度にしてみらいたい」（高

橋師)など先にも提案があったが、高野師はこまかな提案を記している。

「二泊三日くらいはどうか。一泊二日ならば、二日間が経済的に活用されよう。(例)全員宿泊・一日目 A. M. 9:00 ~ 夕食弁当後 21:00 まで——一日くらは宗門のビジョン探求のため徹夜するくらいの熱気があっても良い。二日目 8:00 ~ 17:00 頃まで。」期間はほとんど予算のわくによって決められてしまいが、そのため第一回のように意あまつつめこみ式になってしまったわけである。

10、運営特に分科会方式についての提案

分科会方式に賛成の意見が十五票、分科会を当面必要としないという意見が十票であった。

「分科会方法で第二日目は総合発表と結論」(北川師)
「部門別分科会を開き、その内容を全体会議で討議する積み重ね方式が望ましい」(路次師)に代表される意見が分科会を望む見解である。

一方分科会を必要としないという見解はいろいろな理由があげられている。

「一〇〇人くらいの人数で早くから分科会にすると熱が分散してしまうおそれあり」(新聞師) (註・新聞師は年何回かの異時分科会をテーマ別単独で開催するよう提案し

ている)「此処両三年はまだ分科をする必要なし」(吉田師)
「欲張りのようですが、どの問題も提案討論が聞きたいので分科会は否です」(山田師)「各管区の事情をお互いに知る為にも全体会議」(吉塚師)「運営、進行については非常によいと思う。日程は第一回会議方式でよいが、テーマを十項目くらいにしほり質問時間を多くし、シンポジウムは三題くらい。分科会は必要ない」(三浦師)などである。

C 貴師並びに貴管区諸師の伝道活動について

11、どのような伝道活動をしているか。特別なことをしていたらそのことについて

北川師「文書伝道、題目修行の会、法要の大小にかかわらず必ず説教をする。」
路次師「布教師会長を中心に管区一円の街頭布教、教箋の配布。」

麻生師「春秋二季に町内各講社の連合総会を開かせて定期布教。法華、葬式、通夜には十五分くらいの説教。」
稲垣師「子供会・青年会は月一回、一般信者向け寺院行事には幻灯を用うることもあり。月例説教は年十二回。文

書伝道は随時。行学会を組織して年四回講師を招く。」

三田村師「戸別布教（月に一定の目標をたてる）通夜法話。『寺のたより』発行。伝道テープによる伝道の拡散方法をとっている。」

矢沢師「特別な布教活動はしておりません。一人の来訪者にも私なりの（布教者としての）ささやかな法輪を転じてゆきたいと思うだけです。」

大庭師「普通の題目講を行い、少年には日曜学校的方法で書道を教え、寺に親しませることを主眼としています。有線放送による仏教の教えの宣布、少年刑務所の教誨等です。」

釈師「現在護法大会に専念」

糸久師「管区あげて布教隊を結成しつつあり、組織的な伝道を展開せんとしつつあります。」

木名瀬師「修法と言説のタイアップ布教。ハガキ布教月一回。」

星合師「婦人会組織の充実に力をいれている。」

山内師「朝勤参加の奨励（現在毎朝三〇名位）信徒青年会、婦人会の充実に力をいれている。」

高野師「月二回寺の例会法話・随時、町・青年・婦人・老人会へ出向、労働組合・青年組織等の問題についても宗

教心への回帰を訴える。」

高見師「ゆりかごから墓場までの布教。子供会等地域活動の中で、文書伝道（手紙・教箋送付・ハガキなどで版画や警句をもって布教、掲示は十数年継続、キャンプなどの野外活動のなかでカウンセラー的活動をしている。『あゆみ』誌を発行。」

山田師「年三回教報を送付。春彼岸前・八月盆前・十月お会式前の三回幻灯をもって部落（二〇戸位）別座談会。

管区六十教区で講師を招き檀家向け講演会を年三回開催」

吉塚師「婦人研修会・夏季講習会」

太田「月回向のつど法話。月例法要の時の説教など。」

角田「一年四回文書伝道。」

なかにはあまり自己の活動を記すことを好まれないのか空欄が多いように思われる。

12、伝道についてのビジョンと信念について

北川師「相手方に必ず納得せしめばおかぬ信念が第一でやっている。その人の人生観・世界観の一大革命という立場で布教すべきだ。」

路次師「伝道活動と寺院経営との一体化は意外にむずかしい。」

麻生師「社会生活が複雑激忙の現代では身業説法を第一

と考えている。寺院住職の再教育の必要を痛感している。「
稲垣師「信徒が未信に働きかけ、住職が指導していく。
自分の体験により信念を養わす。」

三田村師「伝道の第一条件は伝道する人にある。まず居
住地域の信望を得なければ耳を傾けない。」

三浦師「私生活が乱れ、言行不一致の布教師が横行して
いる現代に、拜まれる程でなくとも尊敬され、非難されな
いような、これが日蓮聖人の教えを説く人だと言われるよ
うになりたい。」

矢沢師「現在の僧侶すべてが世俗人と何ら変らない。然
しどこか一般世俗人と違ったものの一つでも心の一隅にも
ちつづけたいと常に考えている。」

大庭師「宗義は勿論であるが、なかならず不軽品の人間
尊重を根本義に置き身をもって実践すること。」

小野師「目下群馬日青を育てあげることに全力を傾倒し
ている。」

木名瀬師「教団につながる統一せる伝道と、大聖人の弟
子である自覚と、身命を賭ける信念。」

星合師「住職は万能ではない。しかし不断の努力により
自から道が開かれてくる。」

山内師「伝道全般にわたってなぜやるかではなく、なぜ

やらなかったかと考えること。」

高野師「伝道はテクニクより目的観の訴えなり。その
第一は自らが信仰をもつこと。」

山田師「寺と檀徒は死者の葬祭の関係と思っているもの
が多いが、宗徒の自覚、信行生活の実践を呼びかけ徹底し
たい。」

堀内師「宗門僧俗がもっと毎自作是念の悲願にもえるべ
きでしよう。」

太田師「宗祖の精神に帰れというのが私の信念。めぐま
れない人の救済に専念する。」

(貴重な御意見のうち一部を割愛要約したことをお詫びす
る。)

13、ユニークな伝道活動をしている方、将来を期待され
る青年教師を紹介して下さい。

14、文書伝道、その他特殊な伝道をしておられる方を紹
介して下さい

13・14の項目は、第二回の研究会議に出席していただく
べき方を推せんしてもらおうよう設けたものである。特に文
書伝道資料を展示し、多くの人の参考に供することも予想
していた。

また、問題提起者の発見も、このような試みのなかから可能であると思うが、これはくりかえし調査していかねればならない。

13の推せん者

吉田師は新聞智照師を紹介

稲垣師は名古屋の伊藤有情師を紹介

三浦師は田端義宏師（永昌寺内）遠光寺・江利山義隆師

妙経寺・最上知良師を紹介

矢沢師は菅野啓淳師、秋田の学法寺・平元義雄師、三島

市の国分寺・高木是精師を紹介

小野師は富岡市の本城寺・田村晴明師を紹介

木名瀬師は平元義雄師を紹介

山内師は遠野市の西山昌秀師（智恩寺内）を紹介

堀田師は亀岡の法華寺・若杉惠隆師、神戸の本妙院・大

塚泰詮師を紹介

角田師は甲府市の清蓮寺・田中義信師、橘誠心会・梶山

寛潮師を紹介

14については、

北川師「広宣流布」「法鼓」（彦根・蓮華寺）

三浦師「きづな」（田端義宏師）「ともしび」

大庭師「管内では宇部市円満寺・大津市了性院の二師が

文書伝道で寺檀をかたく結んでいる」

木名瀬師「ハガキ布教をしていられる平元師の資料別

送」

高見師「あゆみ」「信友」（植田観泰師）「誓願」（永

谷観人師）

堀田師「大村市・本経寺、広島・妙国寺、真間弘法寺、

名古屋市・本遠寺」

D 現宗研についての要望・意見

15、提案・意見

北川師「教化研究会議を生かしていただきたい。」

路次師「寺院の統廃合と教団の機能化の問題を研究すべ

きだと思ふ。」

麻生師「現宗研は一般寺院任職に質問指導の窓口を開い

てもらいたい。実務に追いまわされている者は研究の時間

に乏しい。」

新聞師「所報を初めてみて、今回の話も聞いて、現宗研

を見直した。P・R不足です。日蓮宗新聞その他から得る

情報では「学者が現場も知らず空論をこねている」という

印象を多の現場教師が持っている。教団の現代化について

考えている全国の有能教師を会議のときだけでなく、常時

現宗研の中に組織化し加えることを考えて下さい。」

吉田師「現宗研メンバーも忙しいでしょうが——とにかく教化研究会議を開催していこう。各地から何人かの人を選んで補助メンバーとして会議開催の方法運営に参画させたらば、もっと実のある会議が持たれると信ず。」

三田村師「現代における日蓮宗の存在の独自性を打ち出す方向がはっきりしなければ、単なる現代宗教研究に終わってしまう。」

矢沢師「現宗研の諸師に対しては今更申しあげるまでもなく感謝の気持ちでいっぱいです。どうか結構な会議をつづけてほしい。」

大庭師「所長以下真剣にとりくんでおられ敬意を表します。研究された結果を常に全国寺院に流していただきたい。宗門はそのための予算を組まれば宗門人はついて行きます。」

糸久師「宗義大綱の徹底化、檀信徒版の実現化にご尽力願います。」

小野師「現代語にかみくだいた宗義大綱、日蓮宗の教え法華経大要などを作ってもらいたいと思います。」

木名瀬師「各県末端に現宗研の一員を委嘱すべし。」

星合師「地方の実体をつかむためにも、各県所長・布教

師会長等にアンケート調査・実情報告をしていただき、研究会のテーマの選択などもするべきと考える。」

山内師「伝道面で行きづまりをきたすことが多い。手紙一本で即答できる体制をととのえてほしい。」

高野師「どうもアカデミックな考えが鼻につく。大衆に訴える直截なものが必要。日蓮宗の使命を、興学・布教というがこれは迷言で大衆の抜苦与樂でなければ宗門存立の意味はない。この主客を転倒しないこと。常に庶民を頭にいたれた研究であること。」

松井師「所報の無料配布（全寺院）されたし。資金は宗門の財政措置によること。」

山田師「地方へ出張され、地方寺院の状況などを聞かれるのもよし。又地方寺院の布教意欲の向上にも役立つと思います。」

吉塚師「現宗研の姿勢がどうもはっきりしない。宗門が考えねばならないことを指導的に先手先手と出すべきである。」

太田師「各輪番区毎に支部を置き、それぞれの部門別専門委員の研究成果を中央で把握され、それで運営に当たってはどうか。」

一部の方の意見を省略してある。いろいろな現宗研への

期待があるが、組織の問題と財政に関係する問題は、宗議会で承認されなければいかなる処置も不可能である。

16、アンケートを今後定期的に行うことについての賛否

アンケート調査については建設的な意見が多くよせられている。

「調査活動としてアンケートは良いでしょうが、内容に「三田村師」ということが、受ける側からの当然な意見であろう。意味のないものはわずらわしいだけであろうから。「度々されるのもお互いに困却するのではないかと思えます」(矢沢師)というのは多くの方の本音であろう。

「研究会議が開催される日程が近づく場合など、ぜひやっていた方がいろいろ便宜と思う」(矢沢師)という意見は尊重されねばならないし、それを基礎として今後の企画が練られていくはずである。

「具体的な問題点を示し地方の声を聞かれるとけっこうと思います。」(大庭師)「質問項目が多すぎて意見欄が少ないので的をしぼってもらいたい」(三浦師)「質問事項記入に対する説明書を別添した方が、はっきりしたものがあつまるのではないか」(高見師)というきわめて懇切な指示が記されている。

また吉塚師は「定期的に行う必要あり、問題は広げないこと。例・靖国神社問題ならそれだけきめ細かくあらゆる角度から設問すること」という具体的指示もあった。

「アンケートは共通の焦点(今回の研究会議のような)があるから意見がでるのであってこれが白紙のところにもこのようなアンケートがきてもおそらく答えられないであろう。従って単なる動向(又は意識)調査など時には必要とするが無理な目的で軽々しく行うべきではない」(高野師)これはアンケート調査についての総括的意見といえる。また「あまり気をつかいすぎているようです。権威ある現宗研であって欲しいと思えます」(堀田師)という主催者への同情的見解もあった。

17、その他の意見

「その他の意見」として記されているものは、アンケートの結論的なものであった。それは次のような四つの問題に分けて理解できる。

①テキスト・資料の作成・配布あるいは指示と、年度別布教カリキュラムの編成等についての要望。

②教化研究会議の評価と反省。

③現宗研への期待。

④理念の追求。

④は、「日蓮宗新聞に平易な教義詳説を」（稲垣師）
「住職なら誰でも読み行えるもの」（三田村師）「パンフレットの作製配布」（山内師）「資料紹介を」（高見師）
「日蓮宗新聞のスペースを一部利用して信徒むけテキストを」（太田師）などが資料の問題である。

「布教の年間計画及びそれに添った日程案を作るべきです」（三田村師）会議中の師の発言にもあったカリキュラムの問題も考えていかねばならないものである。

⑤「地方の実情報告者にはせめて三ヶ月、半年前に通知すべき」（吉田師）「このような会議は年一度必ずやって欲しい」（大庭師）「会議を大きくせず一般・婦人・青年と分けた会議にして欲しい」（高見師）など会議主催者への忠告や希望も記されていた。

「宗務院で主催したどの会議よりも熱が入っており冗慢でなかったのは、この会議に寄せた期待がいかに大きかったかを物語っていたと思う。それは私一人の実感ではなかったようである」（三浦師）という高い評価もあった。しかし矢沢師の次の反省は誠に痛切なものを云いあてているようである。「僧侶の欠陥としてお互いにテーマを通じて一つのユニティがなかったようです」と。

⑥「現宗研は教団の実態を知るため全国の誠意ある教師

の協力を得て資料を集め、調査統計・分析をすることが大切。」（木名瀬師）「現宗研は宗務院に対する批判の機関でもご用機関でもなく、たえず宗門の伝道方法・教学などの方向づけをし、宗門を動かす源動力となる権威ある場とすべし」（星合師）「予算を大巾に計上すべし」（木名瀬師）など、現宗研への期待も記されていた。

⑦高野師は「日蓮宗を一度自分からつっぱなしてみ、今日日蓮の教義・宗義が今の社会になくはならぬものかなくても世界は困らないか——このことがここ二十数年私の頭から離れません。自分が今その教団に属しているとかいないとかを別にして、宗の多くの方々にも考えていただき、どの点で今日絶対に必要なのか、是非とも聞きたいと思うし、語りあいたいと思う」という、本質的・理念的反省の訴えをしている。この言葉は、教化研究会議をただ教化の手段、てだての技術的問題にのみ解消させることなく、真に現代に応えうる宗門を生みだしていく場とするため、初心として忘れてならないものであろう。

（丸山照雄記）